

受講生募集概要

- 募集対象 以下のいずれかの条件を満たす者
- ① 高等学校卒業以上の学歴を有する者。
 - ② 前項と同等以上の学力があると大学が認めた者。
- ※ 外国人志願者は、授業履修に支障のない日本語能力が必要である。
- 募集人員 100名 書類審査を実施する。
- 在籍期間 1年間（2022年4月1日～2023年3月31日）
- 出願方法 郵便受付のみ（直接持参したものは受け付けません）
- 出願受付期間 2022年1月6日（木）～2022年2月15日（火）
- 検定料 9,800円
- 受講料 220,000円

出願の流れ

1 募集要項の取り寄せ

募集要項をDOORホームページからダウンロード

※ websiteでダウンロードできない方は、下記の方法（電話・FAX・メール）で取り寄せください。

資料請求先=東京藝術大学 美術学部教務係

TEL: 050-5525-2122 FAX: 03-5685-7767 MAIL: bijutsu.kyomukakari@ml.geidai.ac.jp

2 提出書類の作成

課題および必要書類を整える。※提出書類の詳細は募集要項をご確認ください

課題（小論文）＝「あなたがDOORで学ぶ動機を教えてください。」

A4用紙1枚にまとめ、必ず氏名を記入してください。

3 検定料の支払い

検定料9,800円を振込む。

振込期間=2022年1月6日（木）～2月15日（火）

4 書留送付

提出書類一式を封筒に入れ書留郵便にて送付（持ち込み不可）

提出先 東京藝術大学 美術学部教務係

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8

受付期間 2022年1月6日（木）～2月15日（火）※郵便局消印がこの期間内のもの。

受講の可否及び受講手続の詳細については、3月末までに大学から文書で通知します。受講料の振込は選考後となります。
募集要項・出願方法の詳細はホームページにございます。事前に内容を必ずご確認ください。http://door.geidai.ac.jp/info/

オンラインDOOR公開講座

「DOOR公開講座」では、次年度からの受講を検討している方を対象に、1年間の授業についての説明と受講生の声を聞く「トークセッション」を行います。またゲストによる講義も開催します。お気軽にご参加ください。

料金 無料 定員 各回300名（先着順）

お問い合わせ・お申込み DOORプロジェクトWEBサイトよりお申込みください。http://door.geidai.ac.jp/info/

TALK 1 持続可能なメディア芸術と 定住する遊牧民

日時 2022年1月17日（月）
トークセッション=17:00-18:20
特別講義=18:20-19:50

内容 1980年のナムジュンパイク（ビデオアーティスト）のインタビューの中に、定住する遊牧民（Stationary Nomad）という言葉が現れる。脱炭素社会に向けてエネルギー消費を減らしながら、地球上の様々な場所で活動する概念を表した言葉だ。ポストコロナ時代に分断され、脱炭素に向かう社会は40年越しで定住する遊牧民に近づきつつある。本講演では2020年から2022年への変化を振り返り、多くの異なる分野の識者との議論の中で生まれてきた気づきやきっかけを共有し俯瞰した視点を提供する。



講師 落合陽一（メディアアーティスト）
Photo by 蛸川実花

TALK 2 人間の社会力を 進化と文化から読み解く

日時 2022年1月24日（月）
トークセッション=17:00-18:20
特別講義=18:20-19:50

内容 つい最近まで、人類は進化の階段を英雄として駆け上がって来て頂点に立ったと見なされてきた。しかし、今回私たちが経験した新型コロナウイルスによるパンデミックで、この地球は人類ではなく微生物やウイルスの惑星だということの思い知らされた。そもそも人類はアフリカの熱帯雨林でサル類に追い詰められた類人猿の一種として誕生し、弱みを強みに変えて世界中に広がったというのが真の進化史なのだ。それを振りかえりながらコロナ後の社会を展望してみよう。



講師 山極壽一（総合地球環境学研究所 所長）

Q & A

Q 履修証明制度とは何ですか？

A 文部科学省による「履修証明制度」とは、大学がより積極的な社会貢献を促進するため、社会人を対象とした学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書（Certificate）を交付できる制度です。60時間以上の履修で東京藝術大学から「履修証明書」が発行されます。

Q 授業が行なわれる場所はどこですか？

A 講義はオンラインで行い、一部の対面での演習は東京藝術大学上野校地、東京都美術館、福祉施設などで実施します。

Q 福祉、芸術に関連する経験や実績、技術等がなくても受講できますか？

A 経験がなくても受講可能です。

Q オンラインのみの出席で修了できますか？

A オンラインのみの受講でも修了できます。ただし、全て対面で行う授業もあるので、実施方法については授業概要を確認してください。

Q オンライン講義は録画されたもので受講するのですか？

A リアルタイムでの講義を、オンラインで受講するかたちになります。

Q 授業を受けるにあたってパソコンなどの準備は必要ですか？

A 講義はオンラインで行いますので、PCの使用を推奨します。演習も一部オンラインを使う場合があります。オンラインの講義は、zoom（Web会議用アプリ）で行います。授業連絡はメールを使用します。

お問い合わせ

美術学部教務係
東京藝術大学 〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8
受付時間=9:00～16:30（土曜・日曜・祝日、年末年始を除く）
TEL・FAX=050-5525-2122

MAIL=info-door@ml.geidai.ac.jp（休：水・木・祝）

DOORプロジェクトWEBサイト=http://door.geidai.ac.jp/info/



藝大 DOOR | 検索



2022年度 受講生募集

2022年2月15日（火）締切

100名募集

Diversity on the Arts Project

東京藝術大学履修証明プログラム | ダイバーシティ オン ジ アーツ プロジェクト

東京藝大で 社会人と 藝大生が



一緒に学ぶ

年間60時間の受講で履修証明書を取得！

自分に合ったカリキュラムを選択できる！

講義 × 演習 × eアーカイブラーニング

全国からオンラインで参加可能！

対面授業 + オンライン

福祉と芸術

ごあいさつ

「Diversity on the Arts Project」(通称:DOOR)は、「アート×福祉」をテーマに、「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクトです。講師として、現代の社会に生きづらさを感じている当事者、社会との関わりを持ち、表現を行うアーティスト、現代の福祉をより広い視野で捉え直す多様な分野の専門家を迎えます。アートと福祉が込みあうフィールドをお互いの作用において拡張しながら、体系的かつユニークなカリキュラムを展開していきます。

DOORディレクター | 日比野克彦 (東京藝術大学美術学部長)

DOOR 7つの魅力

- 1 オンラインのみでも履修証明書の取得可能。
- 2 藝大生と一緒に学ぶ講義と演習。
- 3 アーティストや多様な福祉の実践者、障害のある当事者を含む30名を超える講師陣。
- 4 ワークショップメイキング、福祉施設でのリサーチや演習、アートプロジェクトへの参加など、実践多数。
- 5 DOOR eアーカイブラーニングで講義を約140時間、視聴可能。
- 6 藝大図書館が1年間利用できる。
- 7 世代、職業など背景の異なる受講生との出会いから生まれるネットワーク。

受講生の声



安東 豊さん
会社員

— 仕事と授業の両立はできましたか？

授業自体は平日の夜や週末ですので、物理的にも両立はできました。あと、皆さん本業を持った社会人の方が大半なのですが、情報共有や交流をするオンラインのコミュニティ(e-ラーニングシステムの掲示板機能)なども提供いただいているので、共に伴走・並走をして行けるような環境があるというのも、両立という意味では非常に助かりました。



中畝 治子さん
画家
NPO法人代表

— 印象に残っている授業は何ですか？

「ダイバーシティ実践論」「ケア原論」は本当に素晴らしい講師陣で、毎週頭の中でぐるぐる考えて、また翌週新しい授業を受けて。最近の世の中は、すごい閉塞感で息苦しい社会。年齢のせいで「諦めちゃおうか」なんて思ったりもするのですが、いろんな現場で諦めないで実践をされている講師の方々のお話で、すごく勇気づけられました。



菅野 美音さん
デザイン科学生

— DOORを受講したきっかけは何ですか？

自分自身が研究したいこととDOORの授業が重なったからです。私がかん関心をもって研究・探求していることは、「どのようにして芸術が福祉(ウェルビーイング)につながっていけるのか」ということです。授業を通しこれを深く考えていきたくて受講しました。

授業概要

必修科目(50%以上の出席)、選択科目・DOOR特講・eアーカイブラーニングを組み合わせ60時間以上の受講で履修証明書を取得可能。

*変更になる可能性があります。

対面講義 / オンライン講義

必修科目

- 下記の2科目の履修が必須(取得時間数:合計45時間)
- 定員なし

ダイバーシティ実践論

期間 通年 曜日 月曜日
日数 15日(22.5時間)
時間 18:20-19:50
受講方法 オンライン



内容 実際に生きづらさを抱えている当事者や、当事者と関わりながら活動を行っている実践者・表現者との対話や、現代の福祉をより広い視点で捉え直す様々な領域の専門家を講師に迎えて、オムニバス形式の講義を行います。これからの社会で創造されるべき共生社会を考察し、実践につながる思考を編んでいくことを目指します。

ケア原論

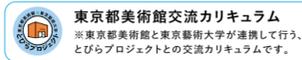
期間 通年 曜日 月曜日
日数 15日(22.5時間)
時間 18:20-19:50
受講方法 オンライン



内容 福祉の歴史やケアの基礎的な考えを知り、わたしたちを取り巻く環境が抱える問題について理解を深めます。また、福祉・アートの両領域における創造的な取り組みを参照することで、現代の福祉とアートの接点について考えます。アートを介し福祉をより多角的な視点で捉えてゆくことを目的としています。

選択科目I

- 下記の5科目から1つを選択(取得時間数:22.5時間)
- 定員あり
- 抽選制



東京都美術館交流カリキュラム
※東京都美術館と東京藝術大学が連携して行う、とびらプロジェクトとの交流カリキュラムです。

プログラム実践演習

期間 通年
曜日 土曜日 or 日曜日
日数 活動に応じる(22.5時間)
場所 東京藝術大学+課外活動
内容 多様な人々がともに過ごす場を作るワークショップなどを考察し、実践する。また、社会の中で見過ごされがちな事象に目を向けてきたアーティストの眼差しに触れ、学びを深める。
*対面のクラスとオンラインのクラスに分かれて実施します。どちらかを選択。



ケア実践場面分析演習

期間 通年
曜日 土曜日 or 日曜日
日数 活動に応じる(22.5時間)
場所 東京藝術大学+課外活動
内容 実際の福祉の現場へ足を運びグループワークなどで共働しながら、ケアの現場をより社会に開かれた場とする方法を考察する。福祉の現場に、自らの活動を作り出すための実習。



ドキュメンタリー映像演習

期間 通年
曜日 主に土日
日数 活動に応じる(22.5時間)
場所 東京藝術大学+課外活動
内容 映像に触れることが初めての受講生でも映像制作・ドキュメンタリー技法を基礎から学び、基本的な映像メディアを扱えることを目標としています。テーマにそって、グループで映像制作をし、授業最終には上映会をします。



美術鑑賞実践演習

期間 7月~2月
曜日 月曜日
日数 6日(22.5時間)
場所 東京藝術大学+東京都美術館
内容 複数の人との対話を通して作品を味わい、作品やモノを介して人がつながる場をデザインするプロセスを学ぶ。対話を生み、自由な発想で、主体的にみる鑑賞の場づくりについて、講義と実践を通して考える。



アクセシビリティデザイン基礎

期間 7月~2月
曜日 日曜日
日数 8日(22.5時間)
場所 東京藝術大学
内容 障害をもつ当事者や社会的弱者の支援に取り組む組織・専門家を招き、人々がアートを介して多様な価値にアクセスできる環境について学ぶ。



選択科目II

- 下記の2科目から複数受講可
- 定員なし ● 夏季集中講義期間に実施

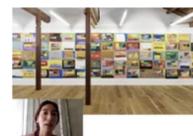
人間形成学総論

期間 夏季
曜日 主に土日
日数 4日(22.5時間)
内容 人間の性質や能力を育て形成する「教育」について考える。現代社会の教育と学びの問題から出発し、人間形成の基本原則について学び、一生涯を通じた学びの基礎的理解を身につける。



アートプロジェクト実践論

期間 夏季
曜日 主に土日
日数 4日(22.5時間)
内容 今、全国各地で様々なアートプロジェクトが展開されていますが、今後アートプロジェクトはどのような方向性を持って進んでゆくべきかという問いについて、実践的立場から検証と考察を行うことを目的としています。



月	授業内容	必修科目	選択科目I (各授業定員があるため抽選を行います)	選択科目II	特講	eアーカイブラーニング
4月	オリエンテーション					
5月						
6月						
7月						
8月	大学夏季休業期間 選択科目や実習、課外活動を実施します。					
9月		ダイバーシティ実践論 (22.5h)	ケア実践場面分析演習 (22.5h)	人間形成学総論 (22.5h)		
10月	後期ガイダンス	ケア原論 (22.5h)	プログラム実践演習 (22.5h)	アートプロジェクト実践論 (22.5h)	DOOR特講	DOOR eアーカイブラーニング (最大45h)
11月						
12月						
1月						
2月						
3月	修了式					
60時間以上の出席で履修証明書を取得		2科目の履修が必須	5科目から1つの選択・履修	任意で履修 複数選択可	任意で履修	任意で視聴

履修の例

仕事の合間を活用して学習したいAさんの場合
ダイバーシティ実践論 (22.5h) + ケア原論 (22.5h) + 美術鑑賞実践演習 (22.5h) + DOOR eアーカイブラーニング (22.5h) = 90h

積極的に講義に参加したいBさんの場合
ダイバーシティ実践論 (22.5h) + ケア原論 (22.5h) + プログラム実践演習 (22.5h) + 人間形成学総論 (22.5h) + アートプロジェクト実践論 (22.5h) + DOOR特講 (5h) + DOOR eアーカイブラーニング (45h) = 162.5h

DOOR 特講

- 取得時間数:授業数による
- 全員受講可



内容 DOORでの学びを広げるための不定期に開催される特別講義です。東京芸大の施設を利用したデッサンの授業やDOORの学びから生まれたテーマをより探究します。

DOOR eアーカイブラーニング

- 約140時間視聴可能
- 最大45時間分、履修時間に加算可能
- 全員視聴可



講師 福島智(学術的バリアフリー学)、久保田翠(認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ)、藤井光(美術家・映像作家)、佐々木淳(医師)、六車由実(民俗学者、社会福祉士)他
内容 過去の講義映像の視聴が可能。DOORの知識が詰まった授業アーカイブを見ることで知見を深めることができます。